

2025年度

地域連携年報

第12号

滋賀短期大学
地域連携センター

SHIGA JUNIOR COLLEGE
COLLABORATIVE
COMMUNITY
COOPERATION CENTER



目次

1. 地域連携センターの体制	1
2. 調査研究プロジェクト	
(1) SHIGATANサーキュラーエコノミープロジェクト	仲村 恭子…… 2
～滋賀短期大学発 防災アウトドアブランド“MOKULAB”の実走～	
(2) 高短連携科目「音楽表現入門Ⅰ」「音楽表現入門Ⅱ」	松井 典子…… 3
3. 地域との連携による教育研究活動	
(1) 「学校夢づくりプロジェクト」スイーツ開発支援	石井 明…… 4
(2) 夏休み親子食育教室	白木 理恵…… 5
(3) カローラフェスタ2025	久保 晶路…… 6
(4) ひらのまつり2025	久保 晶路…… 7
(5) ヘキセンハウスの制作	久保 晶路…… 8
(6) はちまんフェスタ2025 プロジェクションマッピング制作 学生主体で取り組んだ地域連携映像プロジェクト	小笠原寛夫…… 9
4. 地域に向けた公開講座	
(1) 守山すみれ講座	
1) 健康でいるための食事 ～骨粗しょう症予防～	山岡ひとみ……10
2) 運動の基本“歩行” ～ノルディック・ウォーキングのすすめ～	北尾 岳夫……11
3) からだと病気のしくみ	田中 裕之……12
(2) 公開講座	
1) 小・中学生のためのAI講座 ～画像と言葉を使ったAI体験～	松本 善樹……13
2) 中学生のためのプロジェクションマッピング体験講座 次世代育成につながる体験型デジタル学習の成果	小笠原寛夫……14
3) お菓子の講座～スイスのお菓子～	石井 明……15
5. 高大連携事業	
(1) 滋賀県教育委員会の連続講座（2025年7月）	16
(2) 滋賀県高等学校への出前授業（2025年4月～2026年3月）	16
(3) 大学見学受け入れ時の講座（2025年4月～2026年3月）	16
○資料	
新聞などに掲載された記事（2025年4月～2026年3月）	17

1. 地域連携センターの体制

1. 目的

地域連携センターは、本学の地域連携に関わる教育研究の推進等を目的とする。

2. 実施体制

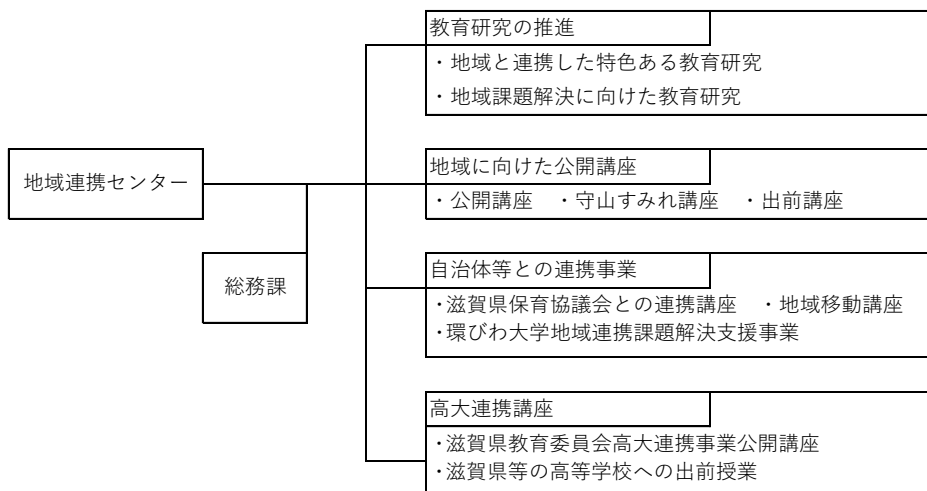
(1) 実施組織について

地域連携センターは、上記の目的を達成するため、センター長、地域連携センター員及び総務課職員によって構成される。

地域連携センターの構成（2025年度）

氏名	所属・職名
沖山 圭子	デジタルライフビジネス学科教授・センター長
菅 眞砂子	幼児教育保育学科特任教授・副センター長
中平真由巳	デジタルライフビジネス学科教授
石井 明	デジタルライフビジネス学科特別教授
松村 都子	幼児教育保育学科准教授
小笠原寛夫	デジタルライフビジネス学科講師
松本 善樹	デジタルライフビジネス学科特任講師
中野 英樹	事務局長
中村 治重	事務局次長
小杉ゆう子	総務課長
山本眞砂子	総務課係長
太附 莉奈	総務課主事

(2) 実施体制



2. 調査研究プロジェクト

(1) SHIGATAN サーキュラーエコノミープロジェクト

滋賀短期大学発 防災アウトドアブランド“MOKULAB”の実走

デジタルライフビジネス学科 仲村 恭子

1. はじめに

昨年度から取り組んできた SHIGATAN サーキュラーエコノミープロジェクトは、大津市の障害福祉サービス事業所れもん会社から廃棄される、ひのきの端材を活用した商品開発を中心に行う、防災アウトドアブランド“MOKULAB”として始動した。ブランドの認知度向上とブランド力向上を目指して学生を中心とした営業活動に加え、江見教授の「マーケティング論」を受講したビジネスコミュニケーション学科の学生とともに、キャッチコピー考案や値段決め、商品の広報活動やプロモーション撮影など、学科・ゼミを超えて協働して取り組むことができた。また、MOKULAB 公式の Instagram も学生に運営してもらい、学生ならではの視点で情報発信を行っている。

2. 2025 年度の MOKULAB の活動実績

6月	・学内でのプロモーション撮影
9月	・れもん会社との協定調印式（びわこ放送・中日新聞掲載） ・大津駅前での本学主催のリリースイベント実施（読売新聞掲載） ・休暇村近江八幡へ 代表学生3名による現地での営業実習（商品のプレゼンテーション）
10月	・大津介護フェスへの出店 ・平野まつりへの出店
11月	・滋賀県立木育施設しがモックでのワークショップ開催
12月	・滋賀県立木育施設しがモックにて MOKULAB の活動内容の掲示（2026年1月31日）まで
1月	・e-radio「LIFE!」への学生の出演
2月	・滋賀県庁での記者会見（京都新聞・中日新聞に掲載） ・滋賀県資源循環課主催「たのしく学ぼうサークルエコノミー@イオンモール草津」でのWS開催 ・東京日本橋にある滋賀県のアンテナショップ「ここ滋賀」での学生による販売実習
3月	・滋賀県立木育施設しがモック 新施設オープンイベントでのWS開催

特に、休暇村近江八幡への営業活動では、先方へのアポ取りから当日のプレゼンテーション、その後の交渉まで学生たちが行った。当日は名刺交換に始まり、商品のプレゼンテーション、具体的な商品導入の提案、価格交渉などを学生たちが主体となって実施した。このような学外での活動により、学生たちはより現実的な営業業務の実務体験をすることが可能となった。実際に相手先のニーズや価格について交渉をするうちに、自分たちの商品の課題も浮き彫りとなり、さらなる商品のブラッシュアップにもつながったように思う。また、滋賀県のアンテナショップ日本橋の「ここ滋賀」での販売実習では、より多くの方に興味を持ってもらえるような声かけの工夫や、売り方の工夫が2日間の実習の中で見られた。勧めた商品が実際の購買につながることは学生にとっても自己効力感を感じられる貴重な体験となった。



写真1 学生の営業活動の様子

写真2 ここ滋賀での販売実習の様子

3. まとめ

現在滋賀県庁の各課の方々をはじめ、多くの方に MOKULAB の取り組みに関心を持っていただいている。今後は高島市の宿泊施設での入浴剤の設置や、ふるさと納税の返礼品選定への応募などさらに活動の幅を広げ、学生にとっての実務体験の場の提供を行っていきたいと考えている。

(2) 高短連携科目

「音楽表現入門Ⅰ」「音楽表現入門Ⅱ」

幼児教育保育学科 松井 典子

1. はじめに

2025年度の高短連携科目では、共通科目として「音楽入門Ⅰ」「音楽入門Ⅱ」を開講した。本講座は、将来保育現場で必要となる音楽活動の基礎を養うことを目的としている。保育の現場では、子どもたちと共に歌いながら音楽活動を行う場面が多く、ピアノによる弾き歌いの力が求められる。本科目では、ピアノ演奏の基礎だけでなく、音楽を身体で感じながら表現する経験や、人前で演奏する経験を通して、保育に活かすことのできる音楽表現の育成を目指した。

2. 活動内容

授業初回は、ピアノ演奏に入る前の導入としてリトミック活動を取り入れた。音楽に合わせて身体を動かし、リズムを全身で感じながら表現することで、音楽の基礎となる身体感覚を養うことを目的とした。受講生は楽しみながら活動に取り組み、音楽への親しみを深めていった。

その後の授業では、グループごとに個人のピアノレッスンを行い、読譜力の習得や子どもの歌の歌唱練習、コードを用いた弾き歌いを中心に学習した。保育現場でよく歌われる楽曲を取り上げ、実際の保育活動を意識した演奏や表現を学んだ。受講生の中にはピアノ初心者もいたが、授業を重ねるにつれて少しずつ人前での演奏にも慣れ、互いに励まし合いながら前向きに授業に取り組む様子が見られた。前期の最終回には小グループによる発表会を行い、後期には受講者全員の前で成果を披露する発表会を実施した。これらの発表の機会は、日頃の練習の成果を発揮するとともに、受講生が1年間の成長を実感する貴重な機会となった。



【写真】後期 発表会の様子

発表後の振り返りでは、「ピアノを弾くことが楽しかった」「練習すれば上達することが分かった」「初心者で緊張したが、自分のピアノでみんなが歌ってくれて嬉しかった」など、前向きな感想が多く寄せられた。

3. 総括

本授業を通して、受講生は子どもの歌の弾き歌いを中心に、音楽活動への理解と実践力を深めることができた。発表会という目標に向けて練習を重ねることで、自信を持って演奏する姿が見られるようになり、音楽の楽しさを実感する機会にもなった。また、1年間の学習を通して弾き歌いのレパートリーを広げ、音楽による表現活動への理解を深めることができた。保育の道に進む生徒はもちろん、それ以外の進路を選択する生徒にとっても、本授業での経験が今後も音楽に親しみ続けるきっかけとなることを期待している。

3. 地域との連携による教育研究活動

(1) 学校夢づくりプロジェクト スイーツ開発支援

デジタルライフビジネス学科 石井 明

1. はじめに

令和7年6月に大津市立打出中学校の池上教諭より「学校夢づくりプロジェクト」への協力依頼を受け、実施した。打出中学校の生徒を対象に、講義でお菓子の歴史、実習で製造体験の講座を行い、スイーツの開発に活かしてもらうことに取り組んだ。生徒の主体性を伸ばし、打出の良さの認識と製菓についての理解を深めることを目的に行い、中学生が開発したお菓子を地元の菓子店で製造、販売してもらうことで共生社会の実現をめざした。

本学は、菓子店に製造を依頼する前の開発段階で、中学生にお菓子の基礎を教え、商品化に向けたアドバイスをおこなう部分を担った。

2. 活動内容

7月7日(月)、本学でお菓子の歴史と材料について基礎的なことを講義で学んでもらい、7月30日(水)には製菓の実習を体験してもらった。初めての实習としては少し難しい内容であったが、製造までの過程をより知ってもらいたいと思い、グラサージュをかけて仕上げる内容とした。スイーツを考えるうえで、商品の物語があると尚良いと伝えた。また、8月には本学学生との交流会を行い、中学生が考案したスイーツに対し学生や教員からアドバイスをを行った。打出中学校生徒による菓子店へのプレゼンは11月に行われたが、10月に本学でプレゼンの事前確認があり、ここでもアドバイスをを行った。



3. 統括

「学校夢づくりプロジェクト」に自ら参加された生徒さんということもあり、また池上教諭のご指導もあり、意欲的、積極的に取り組みをされていた。採用されたスイーツも大変魅力的なものとなった。中学生とは思えないほど細部までしっかり考えられており、商品として販売され、このプロジェクトに関わることができてよかった。



(2) 夏休み親子食育教室

デジタルライフビジネス学科 白木 理恵

1. はじめに

食育教室は、大津市内の小学生とその保護者を対象に、食の大切さを学び、健全な食生活を実践する力を養うこと、また生活習慣の基本である朝食摂取率の向上を目的とした取り組みである。大津市主催の下、本学が協力して2024年度から実施している。2025年度は7月29日（火）に開催した。当日の運営および準備には、本学食健康コース2回生の「地域食育演習」と1回生の「地域貢献専門演習Ⅰ」を履修している学生18名が参加し、参加者のサポートを行った。

2. 活動内容

当日の参加者は、小学生15名、保護者14名であった。メニューは、「しじみごはん」、「えび豆」、「丁字麩のからし酢みそ和え」、「卵とオクラのみそ汁」、「丁字麩ラスク」とし、地域の食文化をふんだんに取り入れた献立とした。

まず里山教室に集合し、全体説明の後、学生が調理方法の説明を行い、小学生は学生のサポートを受けながら調理実習に取り組んだ。小学生は、学生に教わりながら食材を切ったり盛り付けをしたりと、楽しそうに調理に取り組む様子が見られた。保護者には教員による講義を実施した。調理後は、完成した料理を参加者全員で喫食し、「おいしい」「家でも作ってみたい」といった声が聞かれるなど、和やかな雰囲気の中で食事と交流の時間を楽しんだ。家庭でも実践できるようレシピを配布した。

3. 総括

参加者へのアンケートでは、非常に高い満足度が得られた。また、学生の振り返りにおいても、普段の実習では関わる機会の少ない小学生に教える経験ができたことが良い学びになったという声が見られた。一方で、参加者の年齢や調理経験の差に応じた指導の難しさを痛感したという意見もあったが、学生時代に地域の人々と関わりながら活動することは食育を実践的に学ぶ貴重な機会である。今後も地域との連携を深め、子どもたちの健全な食習慣の形成につながる食育活動を継続していきたい。



写真1 里山教室での説明の様子



写真2 調理実習室での様子

(3) カローラフェスタ 2025

デジタルライフビジネス学科 久保 晶路

1. はじめに

4月12～13日の2日間、野洲の希望ヶ丘文化公園にて行われた「カローラフェスタ 2025」。イベントは今回で10回目。ベーカリー塾は昨年に続き2度目の参加となり、13日(日)のみ学外販売を行った。今年は春に開催され、新学期開始直後の日程だったため新2回生のみでの出店となった。

2. 活動内容

今回のイベントでは「フロランタン」「フィナンシェ」「抹茶のクッキー」など定番の焼き菓子とクッキーを合わせて7種類を販売した。前日に全てのお菓子を仕込み、当日は販売のみ。仕込み日(イベント初日)は快晴だったが、販売当日は風雨と気温の低さで来客が少なく販売には苦戦した。

野外のイベントは天候にも左右されるため、どのようにすればお客様が来てくれるのか考えながら、イベントのスタッフ様やマルシェ出店者の皆様と協力しながら、販売を進めていくことができた。

3. まとめ

様々なイベントへの出店を重ねるごとに、学生達の進んで行動する姿や工夫する姿が多くみられ、学生の成長にはとても驚かされる。イベントに初めて参加してくれた学生も居たが、テントの外でも積極的に声を出して集客をしている姿があった。このような授業ではなかなか経験できない活動を通して、学生たちにとっていい刺激となり今後の活躍に活かされることを願う。

今後も滋賀短期大学やベーカリー塾を知っていただくきっかけをつくれるように、様々な活動に積極的に取り組んでいきたい。



(4) ひらのまつり 2025

デジタルライフビジネス学科 久保 晶路

1. はじめに

10月26日、大津市立平野小学校にて、平野学区まちづくり協議会主催の「ひらのまつり 2025」が開催された。地域の方たちが、より参加しやすいイベントになるように昨年度から生まれ変わった当イベント。平野学区を中心とした周辺の飲食店や企業、学校などが参加し、同時に平野小学校の文化祭も開催された。

2. 活動内容

今年度は昨年度より全体の販売量を増やしたり、毎年の人気商品を販売するなどの工夫をした。学生が作りたいものや販売したいものを中心に、季節の素材であるかぼちゃを使用した焼き菓子など6種類、さつまいもやりんごなどを使用したパンを3種類、計9種類販売した。パンは販売当日の朝に焼成をするため、焼き菓子のみ先に販売をし、パンは少し遅れての販売だったが焼きたてをお客様に提供することができた。

イベント当日は生憎の雨で足元が悪く集客が不安だったが、地元の小学生や保護者の方々などで賑わっていた。毎年楽しみにして来て下さる方も多く、学生たちの積極的な声掛けにより完売することができた。

3. まとめ

これまでの地域のつながりや出店があるからこそ、現在も変わらずお声掛けいただき活動出来ていることに感謝する。自ら作ったものを直接販売できる機会は限られているため、ベーカリー塾の活動が学生たちにとって、大変な中にも達成感を感じてもらえることができる良い経験になっていればうれしく思う。今後も学生たちの行動力や好奇心を存分に発揮できる機会をつくっていきたい。



(5) ヘキセンハウスの制作

デジタルライフビジネス学科 久保 晶路

1. はじめに

びわ湖大津プリンスホテルより依頼して下さっているヘキセンハウスの制作も、今年度で 13 年目を迎えた。今年度も石井明教授の指導の下、ベーカリー塾の 2 回生が中心となり作成した。

2. 活動内容

小麦粉、砂糖、卵、バター、スパイス類を使用した生地を用いてヘキセンハウスを組み立てている。今年はサンタ村の街並みを表現するため、大きさの異なる 9 軒の家を制作した。

テーマは「クリスマスを奏でる音楽隊」。動物たちが様々な楽器を手に、サンタ村で演奏を楽しんでいる様子が表現されている。マジパンで作られている個性あふれる動物たちや楽器の数々、それぞれの家にもたくさんの音符がデザインされていたりと作品全体の細かなところまで学生のアイデアがちりばめられている。



作品はホテルのロビーに展示していただき、12月初旬からクリスマスまでと、今年度も12月26日以降はお正月仕様に装飾を変え、1月初旬まで展示された。

3. まとめ

今年で 13 年目となるヘキセンハウスの制作は、ベーカリー塾の 1 年間の集大成である。授業期間での制作のため、期間は 2 週間余りと限られた時間だったが、空き時間を利用して熱心に取り組んでいた。テーマを実際に形にすることは難しいが、創造力や発想力を最大限に活かし作品を完成させたときの達成感は学生にとって特別な経験となったと思う。

今年も貴重な機会を学生に与えて下さった、びわ湖大津プリンスホテルの方々から感謝するとともに、大事な時間を制作に費やしてくれた学生を称えたい。



(6) はちまんフェスタ 2025 プロジェクションマッピング制作 学生主体で取り組んだ地域連携映像プロジェクト

デジタルライフビジネス学科 小笠原寛夫

1. はじめに

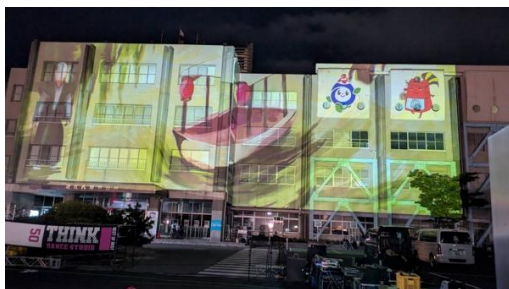
2025年9月15日(月)午後7時、(一社)近江八幡青年会議所主催「はちまんフェスタ2025」において、本学デジタルライフビジネス学科の教員と学生が企画・制作したプロジェクションマッピングを近江八幡市役所庁舎壁面に投影した。本取り組みは、映像表現を通じて地域の魅力を発信し、市民参加型イベントの価値向上を目的としたものである。

2. 活動内容

本制作には学生14名が参加し、企画・キャラクター演出・映像制作を10名、現地投影運営を4名が担当した。企画段階では、近江八幡市の歴史や文化、親しまれている人物・キャラクターを調査し、映像コンセプトを設定した。映像には、織田信長、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、リトルナース(メンタームの女の子)、赤こん君、あづちなどを登場させ、八幡堀、日牟禮八幡宮、白雲館、新町通りといった名所を巡るストーリー構成とした。当日は学生が機材設営や映像調整を行い、市庁舎壁面に映し出された映像は多くの来場者の注目を集め、会場を大いに盛り上げた。

3. 総括

本活動は、学生が調査・企画・制作・運営を一貫して経験する実践的な学びの機会となった。地域ゆかりの人物やキャラクターを用いた映像表現は、市民に親しみやすく、地域PRとしても一定の効果があったと考える。今後も地域連携を通じ、学生の創造力を活かした発信を継続していきたい。



4. 地域に向けた公開講座

(1) 守山すみれ講座

1) 健康でいるための食事～骨粗しょう症予防～

デジタルライフビジネス学科 山岡 ひとみ

1. はじめに

2025年10月19日(日)に、滋賀短期大学附属すみれ保育園(しがたんサテライト)において「健康でいるための食事～骨粗しょう症予防～」という題目で講演を行った。日本人の食事摂取基準2025年版では、脂質異常症や糖尿病に並び、生活機能維持のための対象疾患として新たに「骨粗しょう症」が追加された。健康寿命の延伸において予防すべき疾患であることから、骨粗しょう症予防のためのカルシウム摂取量や効率的に摂取する工夫などについて説明した。

2. 講義内容

(1) 骨の働きとカルシウムについて

骨は、1.筋肉と結合して身体を支える。という働きだけではなく、2.大切な臓器を守る。3.血液を作る。4.カルシウムを蓄える。などの生命にかかわる重要な働きを持つ。体内カルシウムの約99%は、「貯蔵カルシウム」と呼ばれ骨や歯に存在し強固な構造を作る。残りの約1%は「機能カルシウム」と呼ばれ血液、筋肉、神経に存在し、筋肉の収縮、神経系や循環系の機能を維持して生命活動に大きく関わる。私たちの身体は、血液、筋肉、神経に存在する約1%のカルシウム濃度を一定に保たなければ、生きていくことができない。そのため、カルシウムの濃度を一定に保つために貯蔵カルシウムが使われる。そのため、貯蔵カルシウムを蓄えておくことが重要となる。

(2) 骨粗しょう症について

骨は、強さとしなやかさを保つために、常に新しい骨に生まれ変わる。古い骨が破壊される時にカルシウムは失われ、新しい骨が形成される時にカルシウムを必要とする。長年による骨の生まれ変わりを繰り返すなかで、貯蔵カルシウム量が減り骨折しやすい状態になる。この状態を骨粗しょう症という。高齢において骨粗しょう症で骨折すると、寝たきりや認知症につながることもある。

(3) カルシウムを取り入れた食事について

日本人の食事摂取基準に示される一日あたりのカルシウム摂取量は、どの年代も必要摂取量を満たしていない。そのため、カルシウムを意識して食事に取り入れることは摂取量を増やすことに繋がる。カルシウムは、吸収率が悪い栄養素であり、吸収率を高めるためにビタミンCと一緒に摂取することや、リンの過剰摂取といったカルシウムの吸収を阻害する要素を減らすことが重要である。

3. 総括

出席された方からのアンケートでは、「食生活の改善のきっかけになった。」「興味深い内容であった。」という感想をいただいた。改善点としては、配布資料の充実を図り、骨粗しょう症予防のレシピの試食を行うなど、家庭での実践を促す工夫が必要であったと考える。今後も、健康へ導くきっかけ作りの場を提供していきたい。

(1) 守山すみれ講座

2) 運動の基本“歩行”

～ノルディック・ウォーキングのすすめ～

幼児教育保育学科 北尾 岳夫

1. はじめに

人は誰しも、生き生きと自立した生活をより長く送りたいと願うものである。介護・寝たきり・重い病気に罹らず、日常生活を自立して過ごせる期間のことを『健康寿命』と呼ぶが、厚生労働省は、2022年の健康寿命は男性で72.57歳、女性で75.45歳と報告している。一方で2022年時点での平均寿命は男性が81.05歳、女性が87.09歳であり、この健康寿命と平均寿命との差を縮めていくことが課題とされている。“歩行”できることは、心理的にも身体的にも自立した生活の継続に重要な意味を持っており、今回の守山すみれ講座では2021年度と同講座に引き続き、有酸素運動の入門編としてノルディック・ウォーキングに挑戦した。

2. 活動内容

11月15日(土)、守山市にある滋賀短期大学附属すみれ保育園を会場に、守山すみれ講座の第2回目として本講座を開講した。参加者は4名と少なかったが、皆さん非常に意欲的で充実した講座となった。

室内での講義のあと、軽いストレッチでウォーミングアップを終えストックを持っていただいた。最初にストックの使い方を練習し、秋晴れの陽気の中、実際にノルディック・ウォーキングに挑戦していただいた。すみれ保育園を出発し、休憩も交えながら、隣接する守山市民運動公園内の守山市民球場を周回するコース2.2kmを、やや大股でペースの速いパワーウォークで約40分かけて歩いた。距離が延びるにしたがってストックの使い方にも慣れてこられ、しっかりと突いて押すというコツもつかんでいただき、全身を使う有酸素運動としても意味のあるエクササイズが実践できた。



3. まとめ

事後アンケートを拝見したところ非常に好評で、「もっと多くの方に受講していただけたらいいのに」というご意見もいただいた。参加していただいた皆さんの、健康への関心が高いことを再確認することができ、非常にやりがいのある講座であった。

(1) 守山すみれ講座

3) からだと病気のしくみ

デジタルライフビジネス学科 田中 裕之

1. はじめに

2025年11月30日(10:00-12:00)、すみれ保育園(滋賀県守山市)において「からだと病気のしくみ」という題目で講演した。本講座では、人類の歴史上、感染症がどのようにヒトを脅かしてきたか、また、どのように克服してきたか(ワクチンなど)を解説した。

2. 講演内容

(1) ウイルスとは何者か?

ウイルスは、人間の細胞よりずっと小さく、肉眼では見えない。まず、ウイルスの大きさや物質的な特徴を解説した。ウイルスは、DNAもしくはRNAがタンパク質や脂質の殻の中に入ったもので、単なる物質的な粒子ともいえる。また、ウイルスが細胞に付着・侵入したあと、複製して増殖するメカニズムについて説明した。さらに、ウイルスで汚染されやすい公共の場所や物について、クイズ形式で一緒に考えていただいた。

(2) ヒトの免疫について

ウイルスに感染し、発症するまでを概説した。一般的に、私たちヒトの細胞にはウイルスが感染しやすいよう、あらかじめ受容体(レセプター)が用意されている。ウイルスが細胞に付着・侵入したあと、複製して増殖する過程とそのメカニズムについて説明した。また、これほどまでに速いサイクルで変異株が出現するしくみを概説した。

(3) 感染症の検査や対策について

医療機関が実施するPCR検査、抗原検査や抗体検査について、それらの目的や違いについて説明した。また、感染症の重大さを伝えるために、病院や施設で、なぜ、あのように厳重に感染対策を行っているのか(患者や高齢者を守るため)を解説した。

3. まとめ

新型コロナウイルスのパンデミックは、グローバル化が進み、人間が互いに往き来し、接触するサイクルが激増した帰結ともいわれる。WHOによれば、世界規模の人口増と高齢化、都市の過密化がさらに加速すると予想されている。したがって、社会や歴史を動かすような感染症と人類の戦いも、ますます激しくなるという見方もある。本講座に参加した方々が「自分で自分の体を守る知識(セルフケアの意識)」に関心をお持ちいただけたら幸いである。

(2) 公開講座

1) 小・中学生のための AI 講座-画像と言葉を使った AI 体験-

デジタルライフビジネス学科 松本 善樹

1. はじめに

2025年8月22日(13:30~14:30)、滋賀短期大学において「小・中学生のための AI 講座 -画像と言葉を使った AI 体験 -」という題目で、パソコンを使った AI 体験講座を開催した。講座では、パソコンに Web カメラと USB マイクを接続し、アンパンマンのキャラクターの指人形とデッサン用の木製人形を用いて、AI の学習と判定の仕組みを体験する活動を実施した。講座の最後には、小・中学生が今後プログラミングに興味を持つきっかけとなるように Scratch を紹介し、実際に Scratch を用いた簡単なプログラム作成体験を行った。

2. 講演内容

(1) AI による画像モデル学習

AI による画像モデルの学習では、Web カメラを用いてアンパンマンなど異なる 3 種類の指人形を AI に学習させた。AI は学習した結果をモデルとして記憶し、Web カメラで撮影されている指人形が、学習した 3 種類のうちどれに該当するかを判定する。最初は判定精度が低いが、さまざまな角度から指人形を追加学習させることで判定精度が向上することを体験した。また、デッサン用木製人形を用いたポーズ学習も行った。木製人形は 12 か所の関節を動かすことができ、小・中学生はさまざまなポーズを AI に学習させ、AI による画像認識の仕組みを体験した。これらの活動を通して、AI の学習と判定の基本的な仕組みについて理解を深める機会となった。

(2) AI による音声モデル学習

AI による音声モデル学習では、小・中学生の声と保護者の声を AI に学習させて音声モデルを作成した。その後、マイクから入力した声がどちらの声であるかを AI に判定させ、音声認識と学習精度の向上を体験した。

(3) Scratch によるプログラム学習

プログラム学習では、マサチューセッツ工科大学メディア・ラボが開発した Scratch を体験した。Web 上で「10 歩前に進む」などの命令によりキャラクターが動くプログラムを作成した。小・中学生は、簡単な命令を組み合わせ色々な動きを作り、楽しみながらプログラム作成を体験していた。

3. まとめ

今回の講座では、AI 体験と簡単なプログラム体験を行った。AI 体験では、画像や音声を AI が学習してモデル化し、その結果をもとに判定を行う仕組みを小・中学生が体験した。学習データを増やすことで判定精度が向上することについても理解を深めた。近年は AI の活用が社会のさまざまな分野で進んでおり、小・中学生にとっても AI の仕組みを理解することが重要になる。今回の体験を通して、楽しみながら AI やプログラミングに興味を持ち、今後の学習につながることを期待する。

(2) 公開講座

2) 中学生のためのプロジェクションマッピング体験講座 次世代育成につながる体験型デジタル学習の成果

デジタルライフビジネス学科 小笠原寛夫

1. はじめに

本学デジタルライフビジネス学科では、地域の次世代育成とデジタル表現教育の普及を目的として、中学生を対象としたプロジェクションマッピング体験講座を開催した。本講座は、デジタル映像の仕組みを身近に体験し、創造的な思考を育む学びの機会として企画した地域連携活動である。

2. 活動内容

講座は 8 月 8 日（金）13:00～16:00 に実施し、中学生 10 名が参加した。運営は教員と学生スタッフ 4 名で担当し、参加者にとって分かりやすく安全に体験できる環境づくりを行った。体験内容として、こちらで用意した風景、動物、人物など複数の映像素材を活用し、3 種類の箱に投影するミニプロジェクションマッピングを実施した。中学生は、箱の形に映像がぴったり重なる様子里に強い関心を示し、光の当たり方による見え方の違いや、映像が立体物に投影される際の変化について、さまざまな質問を寄せていた。講座の進行においては、学生スタッフが映像切り替えや投影位置の調整、参加者への説明を丁寧に行い、中学生が自ら体験しながら学べるようサポートした。参加者からは、「もっと大きなものにも投影してみたい」「自分でも映像をつくってみたい」といった前向きな感想が多数聞かれ、デジタル表現への興味関心の高まりが見られた。

3. 総括

本講座は、中学生がプロジェクションマッピングに直接触れ、その仕組みを体験的に学ぶ貴重な機会となった。また、教員と学生スタッフ 4 名が連携して講座運営を担当したことで、学生にとっても教育支援や地域交流の経験を深めることができた。デジタル映像を活用した体験型学習は、地域教育の一助として有効であり、今後も継続的な取り組みとして発展が期待される。



(2) 公開講座

3) お菓子の講座

～スイスのお菓子～

デジタルライフビジネス学科 石井 明

1. はじめに

令和7年8月5日(火)と8月7日(木)に一般の方を対象に「スイスのお菓子」を両日同じ内容で開催した。グループで作業し、初めて参加された方にもコミュニケーションをとってもらいながら参加者の皆様に楽しんでもらえるように行った。

2. 活動内容

スイス菓子であるエンガディナー・ヌストルテとヴィーエを作ってもらった。エンガディナー・ヌストルテはスイスのエンガディーン地方の伝統菓いで、くるみをキャラメルで煮詰め、サブレ生地に詰めて焼き上げてもらった。手間がかかり、焼成時間も1時間程度かかるが、限られた時間内で焼き上がるように工夫して行った。ヴィーエはスイスのタルトで、今回はアプリコットをのせて、小さなサイズで焼き上げてもらった。

グループでの作業工程と、1人ずつでの作業工程を入れ、達成感を味わってもらえるようにした。



3. 統括

遠方から参加された方があった。スイス菓子のエンガディナー・ヌストルテは名前が長く難しいお菓子と思いがちだが、別名で販売されていて、馴染みのあるお菓子だ。サブレ生地とくるみとキャラメルで、香ばしさと食感を楽しめる。ヴィーエはアプリコットと一緒に焼き上げ、酸味と甘みのバランスが良いお菓みに焼き上がった。参加された方に喜んでもらえ、開催して良かった。今後もお菓子の講座を通して各国の伝統菓子を伝えていきたい。



5. 高大連携事業

(1) 滋賀県教育委員会の連続講座（2025年7月）

- 1) 2025年7月31日 滋賀短期大学
食を通して世界を学ぶ 中平真由巳
- 2) 2025年7月31日 滋賀短期大学
からだと病気のしくみ 田中裕之

(2) 滋賀県高等学校への出前授業（2025年4月～2026年3月）

- 1) 2025年9月9日 大津高等学校
紙とハサミとのりと…わたし 松村都子
- 2) 2025年10月8日 大津高等学校
子どもの音遊び 松井典子

(3) 大学見学受け入れ時の講座（2025年4月～2026年3月）

- 1) 2025年4月25日 愛知高等学校
こどもと音・音楽 柚木たまみ
- 2) 2025年12月16日 栗東高等学校
保育所・幼稚園の先生になるために必要なこと 鵜川陽子
- 3) 2026年2月10日 長浜農業高等学校
滋賀県の食文化 ー魅力的な滋賀の味ー 中平真由巳

2025年12月5日(金) 中日新聞



滋賀短大の学生たちが制作した「お菓子の家」=大津市のびわ湖大津プリンスホテルで

お菓子の家メルヘン気分楽しんで

大津 滋賀短大生クリスマスイメージ

クリスマスをイメージ「べてケーキの材料でできた、砂糖やクッキーなどず」「お菓子の家」が、大津市

のびわ湖大津プリンスホテルに登場した。滋賀短大(同市竜が丘)の学生が毎年制作しており、メルヘンチックな雰囲気を訪れた人の目を楽しませている。25日までホテルのロビーで展示する。

お菓子の家は、横180センチ、縦90センチ、高さ60センチ。クッキーでできた家9棟とクリスマスツリー3本が並び、今年のテーマは「クリスマスを奏でる音楽隊」で、広場には砂糖とアーモンドを練り合わせた「マジパン」でできた動物たちが50体以上配置され、にぎやかな音楽会を再現。砂糖で雪化粧を表現するなど、細部まで精巧な作りが目を引く。

パンやスイーツを研究するサークル「ベーカリー塾」の学生24人が、1カ月をかけて制作した。11月10日ごろから生地を練り始め、焼成を経て18日にホテルに運び込んだ後、マジパ

ンで動物たちを増やしていった。材料には砂糖17キロ、小麦粉15キロなどを使った。今月1日にお披露目された。家に電気が点くと学生たちが歓声を上げた。ホテルの担当者は「学生と一緒に

に地域を盛り上げたい。多くのの人に見てもらえれば」。サークルの藤川咲部長(20)は「食べ物でできていることに驚いて、楽しんでもらいたい」と声を弾ませた。(林侑太郎)

ごみ減量 アートで訴え

ごみ減量を目指す三つの行動「3R(スリーアール)」を広めるため、大津市の小学生が作ったタイルや、大学生らの衣類作品などが、同市膳所のごみ処理施設・市環境美化センターに飾られている。手作りで温かみのある作品が並び、市民らへ環境保全を呼びかけている。

大津市環境美化センター「3R」推進へ児童・学生ら展示



3Rを広めるため、近隣の小学生がデザインした唐橋焼のタイルを壁に貼っていく若山さん(大津市膳所・市環境美化センター)



滋賀短期大の学生がデニムなどをアップサイクルした衣服も飾られている

デニム端切れで衣服も

「琵琶湖ブルー」のタイル、壁面に

地域と連携して施設に親用(リユース)、再資源化(リサイクル)を訴える。しんでもらおうと、同セン(リサイクル)を表す英語の頭文字に由来する。環境作品は昨年12月、女関棟した。3Rは、ごみの発生と経済が両立する循環型社2階から工場棟をつなぐ渡抑制(リデュース)、再使会に向けた活動で、大津市り廊下の壁にお目見えし

た。タイルは、近隣の富士見小、晴嵐小、南郷小、石山小の4年生、計380人ほどが、昨夏に環境に関する授業で制作した。「琵琶湖ブルー」と呼ばれる深い青色をした「唐橋焼」の陶芸家、若山義浩さん(52)が指導。子どもたちは、粘土で「エコ」の文字や魚の絵などを形作り、10センチ四方のタイルに取り付けた。若山さんは「何を表現したのか、見つけるのが楽しみ」と言いながら、自身の陶房で焼き上げた後、壁に貼っていった。

また、滋賀短期大デザイン・ファッション学科(大津市)の学生たちは、デニムの端切れや古着を活用し、衣服などに作り替えている。同科では、普段から紙袋や古着のアップサイクルに取り組んでおり、学生がデザインから制作まで手がける。

2年の山本夢羽さん(20)は「見た目にかわいいと思ってもらえるように仕上げた。使う布で何が作れるかを考え、創り上げていく楽しさが伝わる」と話した。(薄田和彦)

県産端材・廃油活用 着火剤やコンロ 「モクラボ」商品 東京で販売



ここ滋賀での販売実習で取り扱う「MOKU LAB(モクラボ)」の商品
(大津市・県庁)

滋賀短大生開発 「資源循環と防災 身近に」

滋賀短大(大津市電が丘)が14、15日、東京都の県情報発信拠点「ここ滋賀」で、廃材を活用したオリジナルブランド「MOKU LAB(モクラボ)」の商品の販売実習を行う。商品は、廃材の有効活用に関心をもち、インテリア雑貨としても楽しめる出来栄に仕上げている。手がけた学生は「(災害を)身近なこととして捉えながら(商品)を手にしてほしい」とアピールしている。

モクラボは、大津市の障害福祉サービス事業所「れもん会社」と連携し、学生が発信するブランド。デジタルライフビジネス学科の学生が、資源を有効活用する「サーキュラーエコノミー(循環経済)」を学ぶゼミで商品を開発し、昨秋に完成させた。

商品は、ドーナツ型の着火剤「ちやつかりドーナツ」や円形のコンロ「かまどトーチ」など、アウトドアの防災グッズを中心に展開。事業所の木工作業で出る県産のヒノキ端材や学内で出る廃油、大豆のワックスなど天然素材を用い、環境や人に配慮している。

2024年秋に学内で開かれた講演で、同事業所が端材の廃棄に困っていると紹介したことがきっかけで、活動を始めた。当時、キャンプの人気の高まっていたことに目を付け、誰もが避けて通れない防災と絡め、端材を生かした商品作りに知恵を絞った。生活空間を彩るため、見た目にもこだわった。

ここ滋賀では、ヒノキ端材を組み合わせたミニテーブル、焙煎したヒノキくすを合わせたドリッパーコーヒ、入浴剤なども加えた8種類を取り扱う。2年の繁田樺恋さん(20)は「都市部で想定される災害時のリスクや暮らしへの影響を踏まえ、日常に取り入れられる防災を伝えたい」と意気

高島市と滋賀短大 協定

人材育成や健康づくり、保育

人口減少や人材不足などの課題解決につなげようと、高島市と滋賀短期大(大津市)は地域活性化に関する包括連携協定を締結した。人材育成や健康づくり、幼児教育・保育などで連携する。

同短大は「食健康」や「総合医療事務」、「幼児教育保育」などのコース・学科があり、2025年から医療事務コースの実習を高島市民病院が受け入れている。同短大の人材などを地域活性化に役立ててもらおうと、同短大が昨年夏頃に市に呼びかけて実現。医療、食分野を中心に、学生たちがフィールドワークなどを行う。

13日に市役所で開かれた締結式には、今城克啓市長や同短大の秋山元秀学長らが出席。

今城市長は「若い人が来てくれるのは地域にとって大きな活力になる。この縁を大切に、地域の實際が未来に引き継がれていくことを期待したい」とあいさつ。秋山学長は「市と協力し、地域に貢献したい。空き家をフィールドワークの拠点として活用し、学生たちが地域と交流しながら課題解決するようなプログラムを増やしていきたい」と話していた。



協定を結ぶ高島市の今城市長(右)と滋賀短期大の秋山学長(高島市)

保育人材確保へ連携強化

県と滋賀短大が協定

教育・保育分野における連携協定締結式



幼児教育や保育分野で協力するため、県と滋賀短大は、連携協定を締結した。保育士不足による待機児童問題が深刻化する中、連携を強化して保育人材の確保や育成を図る。

昨年4月1日時点の県内の待機児童は335人。県子育て支援課によると、保育ニーズの高まりに、保育士の確保が追いついていないのが要因の一つ。335人の待機児童を受け入れる

協定では、学生への保育の魅力発信、保育施設への就職支援、保育人材の定着や資質向上などについて連携することを明記した。県庁で協定書を交わした三日月大造知事は「幼児教育や保育を担っていたり、方々の処遇改善、仕事を知らなくてもらうためのPRは大変重要。力を合わせて改善を図っていきたい」と述べた。

滋賀短大の秋山元秀学長は「保育士や幼児教育の専門家を養成し、いかに社会に広げていくか、行政と連携して考えていく」と述べた。(加藤源太郎)

協定書を交わした三日月知事と秋山学長(県庁で)

ためには、追加で65人の保育士を確保する必要があるという。

楽しいイベントをチェック
まちあるきカレンダー



6/21(土)

夏の音色にいやされる
西教寺 風鈴参道通り抜け



疫病退散・除災招福を祈願した風鈴約4,000個が境内に吊るされ、涼やかな音を奏でます。風鈴の絵付け体験や夏野菜そうめんの提供が行われます。

●時間/9時～16時30分 ●場所/西教寺 ●料金/大人500円、中学生300円、小学生200円
※詳しくは西教寺へ。☎077-578-0013
📍観光振興課 ☎077-528-2756



↓
9/21(日)

7/26(土)

めざせ未来の国スポ選手!
2025 SHIGA DREAM PROJECT



国スポサッカー競技会直前イベント開催!元日本代表選手から直接サッカーを教えてもらうチャンスです。

●時間/1部:16時～17時30分(小学3・4年生)
2部:18時～19時30分(小学5・6年生)

📍場所/皇子山総合運動公園陸上競技場

👤対象/次のいずれかの条件を満たす小学生
☑️市内在住 ☑️市内の小学校に在籍 ☑️市内のクラブチーム等に在籍

👥定員/各部100人(申込多数の場合は抽選)

📅申し込み/7月12日(土)までに二次元コードから(当選の発表は7月16日(水))

※詳しくはRENCONTRE大津へ。✉️np.oitsu.2023@gmail.com

📍わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会 ☎077-528-0310



7/29(火)

楽しく食を学ぼう
夏休み親子食育教室



大学の先生と学生の指導の下、調理実習や試食、食に関する講話を聴きます。

●時間/①7月29日(火)10時～13時30分②8月7日(木)10時30分～13時30分

📍場所/①滋賀短期大学②龍谷大学瀬田キャンパス 🧑定員/①②各16組

(いずれも申込多数の場合は抽選、当選者のみ7月22日(火)までにメールでお知らせ)

👤対象/市内在住の小学生とその保護者 ●料金/1人500円

📅申し込み/7月15日(火)までに二次元コードかメール(タイトルに「夏休み親子食育教室参加申込み」、本文に参加希望日、全参加者名(ふりがな)、学年、郵便番号、住所、電話番号、食物アレルギー有無を書いて)で衛生課へ

📍衛生課 ☎077-511-9203 ✉️oitsu1441@city.oitsu.lg.jp



8/3(日)

地元の魅力を再発見!
びわ湖大津ツアーズ「歴史と自然の夏休み特別体験」



夏休みSP「坂本ケーブルナイトツアー～びわ湖の夜景とバックヤードツアー～」

日本一の長さを誇る「坂本ケーブル」が、夜間に特別運行。通常は立入禁止のバックヤードで運行の仕組みを見学し、延暦寺駅屋上の「山のデッキ」で美しい夜景や星空を楽しむことができます。(夕食付き)

●日時/8月3日(日)、10日(日)、16日(土)、9月14日(日)17時30分～21時

📍場所/比叡山 坂本ケーブル「ケーブル延暦寺駅」 🧑定員/40人(最少催行人員20人)

●料金/大津駅発着 中学生以上=10,800円、小学生=8,800円

現地集合 中学生以上=7,800円、小学生=5,800円

📅申し込み/びわ湖大津観光協会へ ☎077-528-2772

📍観光振興課 ☎077-528-2756



地域連携年報 第12号

令和8年3月31日

滋賀短期大学 地域連携センター
〒520-0803 大津市竜が丘24-4
TEL 077-524-3605 FAX 077-523-5124

SUMiRE